

9 番 児 玉

受付番号2番、議席番号9番、児玉洋一でございます。

一般質問通告書にのっとりまして、私は、丹沢湖周辺の観光振興で町の活性化をについて一般質問をさせていただきます。

令和元年7月26日、「広域連携強化による県西地域の活性化」を共通テーマに、足柄上地域1市5町の首長6人と神奈川県知事による懇談会が開催されました。その席で、町長はD52の軌道延伸や洒水の滝遊歩道整備など、特色ある観光資源の磨き上げと同時に、東京2020オリンピックの自転車ロードレース競技を契機に、組織委員会や国、県と連携して、機運の醸成に取り組んでいると発言されています。

一方で、丹沢湖周辺の三保地域では、観光客が訪れる重要な場所であるにもかかわらず、相次ぐ施設の閉鎖や道路通行どめに加え、人口減少と活力衰退が著しく町単独では対処が難しいことから、山梨県へ抜ける広域幹線道路の必要性など、県境を越えた広域連携も含め、県に支援と協力を要望しています。

丹沢湖周辺の地域振興、観光振興こそ町の活性化につながると思い、以下の質問をします。

1) 三保地域から山梨県へ抜ける幹線道路（仮称）「小田原・甲府線」の新設に向け、県境を越えた検討組織の構築など、具体的な整備計画を進めていくべきでは。

2) 玄倉地区の閉館施設「丹沢湖ビジターセンター」、「ユースインロッジ」、「森林館・薬草園」は県営玄倉林道復旧工事と並行し、早期に企業や団体を誘致して地域振興につなげていくべきでは。

3) 観光振興の一つとして、現在夏に実施している丹沢湖花火大会を観光客数の減少する冬季に実施する考えは。

以上です。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長

それでは、児玉洋一議員から「丹沢湖周辺の観光振興で町の活性化を」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「三保地域から山梨県へ抜ける幹線道路（仮称）

『小田原・甲府線』の新設に向け、県境を越えた検討組織の構築など、具体的な整備計画を進めていくべきでは」についてであります。私は、本年7月26日に開催された足柄上地域首長懇談会におきまして、三保地域が抱えるさまざまな課題の解消に向けて、県の支援や協力について、要望いたしました。

その中で、三保地域から山梨県道志村方面への道路が整備されておらず、行き来できないことが防災や地域振興の面で、大きな障壁となっているため、県境を越えた広域幹線道路整備の必要性について、強く要望したところであります。

御質問にある(仮称)小田原・甲府線の県境を越えた検討組織については、平成12年度に神奈川県、山梨県、静岡県の関係自治体による「広域交通拠点整備計画調査研究会」を立ち上げ、さらに平成17年度には「(仮称)小田原・甲府線整備計画調査研究会」を発足し、平成20年度に研究会を閉会するまでの9年間の長きにわたり検討し、一定の成果があったものと認識しておりますので、早期に同様の検討組織を設置することは考えておりません。

今回の首長懇談会での私の発言を受けて、県でも本町に県境を越えた道路の必要性を十分御認識いただいたと思いますし、私の発言に対する県側の答弁の中で、意見交換の場があれば、技術的な助言をしていただける旨の発言もありましたので、当面は県に御支援をいただきながら、近隣自治体と連携して国等へ要望活動を行うなど、長期的な視点で進めていきたいと考えております。

次に、2点目の御質問の「玄倉地区の閉館施設『丹沢湖ビジターセンター』、『ユースンロッジ』、『森林館・薬草園』は県営玄倉林道復旧工事と並行し、早期に企業や団体を誘致して地域振興につなげていくべきでは」についてであります。まず、県有施設であるユースンロッジについては、施設自体の老朽化や管理団体が不在であること、そして県営玄倉林道の斜面崩壊に伴う復旧工事のため、山北町内から直接、現地に向かうことができない状況であることから、県として、施設の再オープンについて、今後の方向性を検討しているところであり、町は再開を要望しております。

町有施設の町立丹沢森林館・薬草園については、施設整備から30年以上が

経過し、老朽化が進んでいることや、指定管理施設としては収益性が乏しいとの考えから、平成23年度以降は、町の直接管理施設としているところで

す。

また、旧丹沢湖ビジターセンターについては、県の緊急財政対策により平成27年3月に廃止され、町に平成28年11月に無償譲渡された施設であり、県との取り決めの中で地域振興を見据えた活用が求められている施設になります。町では、旧丹沢湖ビジターセンターの活用については、ユースンロッジと合わせて検討する考えでありましたが、県営玄倉林道の斜面崩落の復旧には時間がかかることから、ビジターセンター単体での活用について、検討する必要があると考えております。

これら、町有施設の利用意向について、民間事業者や団体から施設の貸借等に関する問い合わせをいくつかはいただいておりますが、スポット的・イベント的な要素の高いものであるため、林道復旧工事後のユースンブルーの集客等も視野に入れ、玄倉自治会との協議を行いつつ、玄倉地域全体の地域振興につながるような民間活力の導入や事業展開、企業誘致にかかる条件整備等について、検討をしまいたいと考えております。

次に、3点目の御質問の「観光振興の一つとして、現在夏に実施している丹沢湖花火大会を観光客数が減少する冬季に実施する考えは」についてであります。本年8月10日に開催された第37回丹沢湖花火大会では、山北町観光協会や自治会役員等で構成された実行委員会の方々や協賛していただいている企業の協力があり、盛況に開催できたものと考えております。

御質問の冬季実施の打上花火についてですが、本町では、過去に丹沢湖イルミネーションを盛り上げるため、短時間ではありますが打ち上げた経過がありますが、この時期は空気が澄んでいることもあり、花火が非常にきれいだと認識しております。

花火大会の開催には、観光関係者はもちろん、地域に住む多くの方々の人的・財政的支援が必要不可欠であるため、これらの方々の意見を集約していただき、冬季花火大会の開催について、町及び山北町観光協会と方向を決めていきたいと考えております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉

それでは、1つ目の質問から再質問をさせていただきたいと思います。

まず、幹線道路の整備計画の件ですね。ここの部分についてですけれども、これ丹沢湖周辺であったり、三保地域にとってみたら、これ、相当大きなニュースなのかななんて思っています。いわゆる、とうとう町長の口から、山梨県へ抜ける道の必要性について、懇談会の場ではありましたけれども、ある意味では、公の場で発言をしてもらえたといったところにおいては、地域で、かなり話が実は盛り上がっていて、その辺の経過はどうなんだといったところが、やっぱり今回の趣旨でもあります。

地元とか議会のほうからは、結構、いろんな場において、やはり、この道心のほうに抜ける小田原甲府線、必要性については訴えかけてきたんですけど、どうも、やはりなかなか具体的な答弁は、当然いただけることはなかったといったところもあったり、過去の一般質問の中では、町長のほうから、例えば国道の246号の拡張が、ちょっとは優先順位としては高いよとか、そういったお話もあったりもしました。

ただ、やはり公の場で、今回、発言をなされたといったところについて、新聞記事にも出てるとおりだと思います。このあたり、先ほど、少しちょっと、また新たな何か組織は考えないよみたいな発言、答弁もあつたようですが、改めて、このあたりの発言の経緯に至った町長の意志というか、決意、このあたり伺いたいんですけども。

議 長  
町 長

町長。

私も三県サミットで、いろいろな道路の県ごと、県境を越えますんで、そういう中でのやりとりをずっと見させていただきました。その中で、9年間ほど、そういった研究会でやってきたんですけども、やはり優先順位の中では、後ろのほうというんですか、急ぎではないというようなことから、その研究会自体は終わった経過ではございますけれども。

しかし、地元の人たちの取り組み、そして防災上、山北町だけでなく、道志についても、当然、何かあった場合には必要な道路ではないかということもございますし、そういったような関係から、県のほうで、もう一度、そういったような問題について取り組んでほしい、また我々もそういうようなことを研究していきたいというような趣旨で申し上げさせていただきました。

スマートインターができた後、どういうふうになるのか、我々もそういった、実際に観光に来られる方の人数とか、あるいは、そういったような防災上の問題、そういったようなことがどうなるか、実際に想像するしかございませんけれども、そういう中では、やはり間違いなくふえることは間違いのないというふうに思っておりますので、そういった中では、やはりそういったような防災上、あるいは、また観光上の理由から、そういったことは必要であろうというふうに思っております。

一方では、前から申し上げているとおり、今ここの東名高速道路が、旧本線、そして拡幅したところ、そして今度は新東名というふうに、3つございますけれども、相変わらず、この246は2車線というようなところが多くて、非常に渋滞するところがもう決まっていますので、やはり山北町にとっては、この246の拡幅というのは、何にも増して優先順位が高い問題だろうというふうに思っております。

そういった中で、こういった甲府線についても、やはり今からそういった問題をやはり県に願いますしかないというようなことで、要望させていただきましたけれども、これらは、全て山北町がどのようなランドデザインでいけるかというようなことにかかわっているというふうに思いますので、この新東名が非常に大きなインパクトを、そして、また小山にあれだけの工業団地等ができ上がっておりますので、そういったものの補完的なものに、山北町がどのようになるか、そういったことが、やはり大きな甲府線については、大きな契機になるんじゃないかというふうに思っておりますので、そういったことを見詰めながら、今現在県のほうに要望しているということでございます。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 今町長のほうから、非常に前向きな御答弁いただいたなと感じているところなんですけれども、であるならばだと思うんですね。であるならば、やはり、こう町だけではなくて、県に要望するだけではなくて、検討組織、研究会みたいなものを、この最初の答弁では検討組織を設置することは考えていないといったところでしたけれども、やっぱりスマートインターチェンジを拠点に、これからランドデザインというお言葉もありましたけれども、や

はりスマートインターチェンジを拠点に大きなグランドデザインを描いていく、山北町がこれからどういう方向に向かっていくのかといったものは、この幹線道路の計画が、やはり、私はこう先方もあることなんで、一番重要な部分ではないのかなといったところを考えてはいるんです。そういった意味で、やはり組織は立ち上げない、設置することは考えていないといったところはありましたけれども、このあたり、山梨県、246のところは、ちょっと今回は置いておきますが、山梨県へ抜ける道も道志村、これ先方があることですから、もうちょっとお伺いしますが、この道志村の今温度というかは、今実際、どういう感じで受けてますでしょうか。

議 長  
企 画 政 策 課 長

企画政策課長。

答弁させていただきます。

先ほど、町長の答弁書のほうでもあったとおり、当初、道志村さんのほうから声かけがございまして、検討組織をつくったという経緯がございまして、研究会につきましては、平成12年度に立ち上げまして、8回ほど開催いたしまして、一度、平成16年で最初の研究会を整理いたしまして、引き続き、17年度から、また新たな名称を変えた研究会なんですけれども、検討内容については同様の検討内容でございまして、そういう研究会を立ち上げた経緯がございまして、

それで、ちょっと研究会の成果について、御説明をさせていただきますと、最初の研究会「広域交通拠点整備計画調査研究会」という研究会の中で、小田原甲府線の山北町から道志村までのルート、こちらについて、いくつかの案をつくりまして、最終的に研究会のほうで、一つの案にまとめたというような経緯がございまして、

そして、その後、立ち上げました「小田原甲府線整備計画調査研究会」こちらの研究会におきましては、山北町の県境から道志方面への山梨側のルート、こちらと山北町の246より南側のルート、こちらのほうの調査を行ってございまして、そして、この新しい研究会を立ち上げたときに、山梨県側のほうの南部部会、それと神奈川県側のほうの北部部会という2つの部会に分けて、それぞれ研究を進めていこうと。当然、中で情報共有というのはしていくんですけども、2つの県を、それぞれの県で研究会をしていこうということで、

立ち上げた研究会でございます。

このころから、若干、山梨県側の動きが若干ちょっと鈍くなっていて、神奈川県側のほうから、結構、状況どうですかと聞くと、ちょっと、なかなか動いていないような状況でございまして、最終的に、この2つ目の研究会につきましては、平成20年度に一度閉じさせていただいて、ある程度、成果としてまとめ上げました。

その後なんですけれども、道志村のほうにも、いろいろ電話ですとか、いろいろ町のほうから総合計画をつくる際に、小田原甲府線の位置づけをどうしたらいいでしょうかねみたいな話も、向こうに電話等で照会をしていたんですけれども、なかなか、ちょっと担当の部署が、今はもういないようですとか、そういうような御回答でございまして、山北町のほうでも、ちょっとそのあたりで非常に総合計画への位置づけとか、その部分で非常に困りまして、道志村さんのほうはそういう状況でございましたので、さきに一般質問でもいただきましたけれども、後期計画のほうには、小田原甲府線のほうは位置づけていないといったような状況でございまして、現在、道志村のほうでも、以前の一般質問でもお答えしたとおり、山北側への道については、余り目が向いていないということで、むしろ、都留市のほうですとか、神奈川県の相模原のほうへのアクセス道路、こちらのほうを重点的に進めているというような状況でございまして、現在の、当然、道志村の総合計画のほうにも山北町への道についての位置づけは何ら表現されていないといったような状況でございます。

議 長 児玉洋一議員。

ちょっといいですか。副町長。

副 町 長 今、町長と、それから企画政策課長が答弁したとおりなんです、考え方として、道志村は余りこっちを向いてないと、今現在ですから。山北町は向いているんだけど、相手が乗ってこない。この研究会というのは、相手があることなので、山北だけで、神奈川県側だけで立ち上げてどうにもならない。

ということで、町長の段階では早期に研究会は立ち上げすることは考えていないと、やることをまずやりましょうと、神奈川県を巻き込んだ中で、再

度、もう一度、関係自治体、近隣自治体と機運を盛り上げて、そして山梨県のほうとも、県を通して調査するという形のものを作って、山北町は、今企画課長も申し上げたとおり、町の総合計画には載っております。道志村、山梨県につなげるんだと、研究するんだということは載っております。

ところが、相手はもう一切乗ってこないということなので、私としては、よく議員の皆様からそういう話が出たときには、道志村の議員さんとのつながりの中で、道志村の議会で、何で神奈川県にいかないんだと。山北町に行かないんだということを、質問を多くしていただいて、道志村が動く方向を山北町の方向を変えるというのも、一つの方向ではないのか、方策ではないのかというようなことも伝えております。

いずれにしても山北町としては今、町長が言ったように諦めていません。ですが、相手がもう乗ってこないんで、何とか乗ってきてもらうのは、神奈川県を巻き込み、そして近隣自治体も巻き込み、そしてやっていきたいという意志でございますので、よろしく御理解いただきたいと思います。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 私に申し上げたいこと、副町長がお答えいただきました。今、総合計画に載ってないですね。山梨県に抜ける道という形では、たしか実際には載ってなかったと思うんですけど。

議 長 副町長。

町 長 具体的な名称は載ってないんですが、県域を超えたものについては、積極的に活用して進めるという形であります。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 まさに相手側、道志村の反応は、我々議会としても、今認識をしているところです。かなり議会の中でも道志村の議員と今交流を持っているので、道志村の状況は、ある程度把握はしています。

やはりスマートインターチェンジ。今バトンはおそらく山北町が持っているかと思うんですね。そのバトンをどういうふうな連携や強化をして、先方に受け渡すかといった話になってくるかと思うので、このあたりは、しっかりと検討組織なり、我々、神奈川県側のスタンスをしっかりと固めて、やはり先方に届けていくべきかなと思っています。



先ほど、少し藤野というか、相模原のほうに抜ける道みたいなお話もありました。このあたり、じゃあもう相手が山梨県ではだめだったら、神奈川県内で何とかしようかみたいな、神奈川県としての温度、このあたりはどうなんでしょうか。

議 長  
企 画 政 策 課 長

企画政策課長。

ただいまの御質問については、山梨県側に行くのが難しいのであれば、神奈川県の相模原市のほうに抜けるような道をとる御質問かと思えます。

それで、現在、山北藤野線のことをちょっと述べさせていただきますと、山北藤野線につきましては、山北町と相模原市ですね、山北藤野線という形で、路線計画というか、構想的にはつながっている道路でございます。現在、山藤線の関係、県西土木事務所さんのほうと、いろいろ山北町内の特に三保地域の中の狭い部分について、道路改良とかをしていただいております、年に何回か土木さんと、あと、うちの町の副町長を頭に山藤線の改良の関係について、いろいろ相談をさせていただきながら、土木さんのほうで、計画的に整備を進めていただいているような状況でございます。

ですので、その会議体の中で、ちょっと議員さんからお話のありました件についても、土木さんのほうに、ちょっと情報提供させていただきまして、実際につながるかどうかという部分もあるんですけども、おっしゃるように、山梨がだめなら神奈川県内で、どこかに抜ける道というのは、当然、必要かと思えますので、そうした中でちょっとお話を進めていけたらなということ考えてございます。

それと、あと県西土木さんとの関係なんですけれども、年に1回、情報交換会ということで、県西土木さんの所長さん以下幹部職員の方と、あと町の町長副町長以下、関係職員で意見交換会をやってございます。今年度についてなんですけれども、その意見交換会の中でも、小田原甲府線関係、ちょっと若干資料をお出ししてお話をさせていただきますので、そういったことをきっかけにしながら、ちょっと県西土木さんのほうにも働きかけをしてまいりたいというふうに考えてございます。

議 長  
9 番 児 玉

児玉洋一議員。

山梨県がだめなら神奈川県へと、だめならこっちみたいな考えではないん

ですけれども、とにかく北へ抜ける道といったところについては、スマートインターチェンジを拠点にした、先ほど町長おっしゃられましたグランドデザイン、やはり、ここがしっかりと構築をされていかないとだめだと思いますので、山北町だけではなくて、せっかく、この1市5町の首長が集まった中での懇談会ですので、そのあたり、もう一度県西地域で必要性を見ていただいて、必要なところに強く要望をし続けていっていただきたいなというふうに考えています。

2点目の質問に移りますが、これは玄倉地域の閉館施設です。

答弁にもありましたけど、なかなか難しいのかなといったところの印象は受けます。ただ、せんだって、県のほうから3年間で林道を整備しますよと、復旧工事しますよ、このあたりは計画も立てて、今、実際着手をしているという話です。裏を返せば、3年間猶予があるというか、3年間の中で、やっぱり町として、どういった活用をしていくのかといったふうな少しスパンができたというか、考えがあるんですけど、そのあたり、現段階で具体的などころというか、ちょこっと答弁にもありましたけど、いくつか、ちょっと打診があったというような話ですが、そのあたり、お答えできる範囲で構わないんですが、どういったところ、経緯ありますでしょうか。

議 長 商工観光課長。

商工観光課長 どのような具体的なアプローチがあったかというような、そういうような答弁でよろしいでしょうか。

商工観光課の所管しておるのがユースンロッジ、そして森林館・薬草園でございますので、その2施設について、説明のほうをまずさせていただきたいと思います。

森林館につきましては、森林組合のほうから貯木場として活用できないかと、こういったお問い合わせがございました。それで、森林館の駐車場につきましては、その当時、現在もそうなんですけども、丹沢湖花火大会、丹沢湖カヌーマラソン、丹沢湖ハーフマラソン等々で駐車場として活用しているといったこともございまして、それについては、ちょっと難しいなということでお答えさせていただいております。

それで、森林館につきましては、現在、一団体のほうから活用について、

話が来てございますので、その件について協議しているといった段階でございます。それで他の薬草園、当然、ユーシンロッジについては、特に商工観光課のほうに問い合わせ等は来ていないというのが現状でございます。

議 長 環境課長。

環 境 課 長 環境課の所管がしてますのは、旧ビジターセンターでございます。

これまでの引き合いということでお話があったのは、介護系の施設ということでお話がありました。こちらにつきましては、先ほど町長の答弁にもございましたけれども、地域振興につながるというところの部分で、少しちょっとどうなのかというところでございます。

また、ほかには、野外レクリエーション施設ということで、グランピングでしたりとか、サイクリング、カヌーとか、そういうアウトドア系の事業の拠点として使いたいというお話がございましたけれども、少しそのお話の中で、従来のビジターセンターが実施していた際の施設の維持管理費という部分で、こちらのほうが、大体、年間で500万ぐらい、施設の維持管理でかかっていると、経費が。こういったお話の中で、少しその採算がとれるのかどうかというのは難しいということで、一応、お話はそのようなお話でやりたいんだということはあるんですけども、具体的に、じゃあどういふうに進めていくかというところの話の中では、ちょっと経費的な部分で難しいというようなことでの状況でございます。

議 長 副町長。

副 町 長 ビジターセンターにつきましては、神奈川県施設だったと思うんです。

この答弁にもありますけれども、ユーシンロッジとセットで考えていただく。つまり、もう少し平たく言いますと、ユーシンロッジが、神奈川県がやめたんですけども、町としては、絶対に続けてほしいということを県に申し上げております。その中で業者が決まった段階で、ビジターセンターも同じ業者なりにセットをお願いして、御存じのとおり、玄倉方面の山へ行くときの案内とか、登山計画書なんか出すところが全部なくなってしまったんです。

ですから、そういうのを含めて、一緒にユーシンロッジとセットで考えていきたいというようなことを、町としては、町長の指示にもありましたけど、

考えていきたいということで取り組んでいたんですが、林道が崩れてしまいまして、県がユーシンロッジがどうなるのか、どういう形で再開するのか、しないのかというのが、今現在はっきりしていませんので、ちょっと、もやもやしちゃっている状況があります。ただ、それもはっきりした中で、町としては取り組んでいかなきゃいけない、場合によっては町長の考え方もありますけど、そろそろ単独でも考えなきゃいけないときが来るのかなということも含めまして、ちょっと検討していきますということでございます。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 過去の利用とか、引き合いみたいなのはあったということは、私も承知をしているところではございます。やはりイベントとかスポット的な要素で活用されることは多いのかなんていうのは、印象は受けます。ただ、やはりこの辺もランドデザインなのかなと、やっぱり思っているんですね。実は、この間、総務環境常任委員会で、あの辺、施設一帯を視察してきました。ビジターセンターは、まだ全然きれいで使えるかなと思うんですが、一体として、今副町長のほうからありましたけど、一体としてといった意味でいけば、やっぱりユーシンロッジは道路復旧があつて難しいのかな。

ただ、ビジターセンターと、例えば森林館・薬草園あのあたりは、ちょっと間に少し民間の施設入りますけれども、ちょっと、それこそそのあたり一体として考えることも可能かなんて思っているんです。

ただ、やはり森林館の建物は、もうかなり厳しいと思うんですけど、まず、そこについて解体の計画とかありますか。

議 長 商工観光課長。

商 工 観 光 課 長 森林館の解体の計画については、現在のところはございません。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 いい環境なんですよね。ただ、あれがあることで、やっぱり安全とか、治安とか、防災とか、多分そういうものがあることで、何か民間の人たちが、ちょっと手をこまねいちゃっている。あれ潰してくれて、もっと広くしてくれたら、ちょっと考えようかなみたいな民間の事業者も出てくるんじゃないかな、なんて印象を受けたりするんで、そのあたり、町長どうですか。

議 長 町長。

町

長 おっしゃるように、私が直接聞いたのは、カヌーマラソンで、やはりヤマビルがあそこひどいということで、実際に来られた、あそこの駐車場にとめた方がヤマビルの被害に遭われたというようなことを聞いております。

ですから、そういったような、これからもカヌーマラソンをやっていきますんで、そういう意味では、カヌーに関しては、今SUPのほうを取り組んでおりますけれども、何らかの形で、駐車場、そしてカヌーの艇庫みたいなものが、ある程度、考えなきゃいけないなというふうには考えております。それが、カヌーがいいのか、あるいは、また別の団体のどちらにしてもアウトドア系だというふうには思っておりますけれども、それに資するような駐車場なり施設というのは、当然、考えていかなければいけないというふうに思っています。

ただ、先ほどから、児玉議員のグランドデザインの中で、私が一番考えておりますのは、防災上はとにかく甲府線がだめなら、今現在、こうスマートが完成したときに、共和のほうへ抜けるぐらいしか、今、道がない。ですから、寄、あるいは藤野線、さまざまな林道があるわけですが、そういったところを防災的には開放してほしいというようなことは、県のほうにお伝えをしておりますし、完成したときに、国のほうに行ったときに、一番ストレートに言われました。ここの清水橋のところはだめだよと、こう即決で言われました。これじゃあ、全然、インターができれば渋滞すると。ここのところを改修しなければ、まず非常に、地元の人たちに大変な迷惑がかかるよと。大体1日千数百台というような試算でありますけれども、そういったような車が当然おりてきた、あるいは行くときに抜け道がないわけですから、当然、そこのところは、今の1車線のところでずっと例えば右折、左折そういったようなことを考えますと、2車線はどうしても必要だというのが、国交省の見た方の、ここ直したらどうや40億ぐらいだろうと。国が20億出すから、山北、町が10億、県が10億出せば、すぐできるよと、こういうふうに、直感で言われたから、実際にはそのようなことはないんですけれども、プロの方が見たときに、あれが開通したときの一番のネックになるだろうというふうに思っています。

そうなったときに、そこのところと、そして抜ける道を考えなければ、も

ちろん、甲府線も大事なんですけれども、もう開通したら、まず、そこのところ、地元要望で出てくるんじゃないかと、何とかしろと。私のほうとしては、それは何とかしなければいけないというふうに思いますんで、そういった中では、あそこの清水橋のところというのは、まず相当の優先順位が高くなるだろうと。それから、それには緩和するために、今道の駅の上を直していますけど、あそこから、仮に共和地区に抜けるにしても、やはり道も狭いですし、非常に大変だということで、やはり、もう一本、寄り、あるいは相模原へ抜ける、そういったような今林道はあるんですけど、通行どめになっておりますんで、そういったところも、当然考えていかなければならない。ですから、総合的に見て、そういったようなことが、仮に、その森林館・薬草園いろんなところを、仮に誘致するにしても、同じようなことが来ると思います。そこところに観光客が森林館や薬草園に来ていただいても、今度は帰るときに、常に花火のときと同じような渋滞が起こる可能性が非常に高いというふうに考えておりますので、それらは、やはり何とか町のほうとしては、開通までに方法が出せればいいんですけど、ただ、どうなるかわからないという本当になるのか、ならないのかということも、わかりませんが、なったときには、すぐに対応しなければいけないというふうに考えております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 町長のほうからグランドデザインのお話をいただきました。清水エリアのグランドデザインは、この後の一般質問からございますから、少しは、私は、その部分掘り下げるとはやめますけれども、やはり、そういったデザインが必要、グランドデザインが必要だといったところなんです。私が考えること、実はあつたりもするんですけど、具体的なことというよりかではなくて、やっぱり、ここの姿勢ですよ。もう3年あるけど、3年しかないんですよ。その3年間の中で、やっぱりこういろんなことに対して、もっと積極的に協議体なんかも使いながら、地元ととか、あと町でとかでやっても、地元も、なかなかさっきの話もありましたけど、なかなか人口も少なくなってきたり、活力も衰退してきているという中で、地元の声とかという話ではなくて、やっぱり例えば第三者、PFIというわけじゃないですけど、

今このサウンディング型の市場調査なんかも、結構はやってきているかと思  
いますけれども、官民連携、こういったところを通じて、対話なんかを通じ  
ながら、もっといろんなアイデアを吸収し合うと。そういった施設運営、今  
後の活用は、やっぱり必要なのかななんて思っています。

このあたり、私が思っていることと、おそらく、今町長ないし関係課長が  
おっしゃられた部分はマッチしていると、私は思っておりますので、このあ  
たり、今後の3年間の中で玄倉地域、あの地域をどういうふうに生かしてい  
きたいのかといったところをぜひユースの復活を待ち望む観光客、こんな  
ような期待の持てる施策をぜひ取り組んでいってまいりたいとお願いをした  
いと思っています。

ちょっと時間の関係もあるんで、次のほうに行きます。

先ほど花火大会の話も、町長ちょっと触れられていました。非常に混むん  
ですね、やっぱり。そんな中で、やはり活力衰退が著しい三保地域でおりま  
すので、実施されるイベントは、それでも多いんですね、丹沢湖でやるイベ  
ントというのは。そうなってくると、実行委員会を立ち上げて、大体同じ  
顔ぶれなんです。そういったところで、もう老体にむち打って、特に花火大  
会なんか夏ですから、いよいよ辛いよというのが、実は本音のところなのか  
ななんて思っていますけど。でも、そうは言っても一大イベントですから、  
何とかやりたいといったところもあって、暑いよりも、ちょっと閑散期で少  
し落ちついた時期でやったらどうかというような声があります。このあたり、  
町長、お考えどうですか。

議 長 町長。

町 長 花火大会については、今8月10日にやっておりますけども、これを冬の時  
期というようなところで、方向性については、全く問題はないというふう  
に思っております。ですから、地元の理解あるいは、またそういったような具  
体的なものが提案されれば、また町としても、その方向でやっていきたいと  
いうふうに思っておりますけども。

ただ、じゃあ具体的なほうになると、11月は、まず無理ですよ。これだ  
けイベントが町で抱えておりますから、まず11月は無理。じゃあ12月は大き  
いかと。あるいは1月はという、そういう選択肢になると思う。そうなる

まず、ですから、総論はもう全く賛成でございますけれども、各論の部分に入ってくると、かなり実際はハードルが高いのではないかなというふうに考えております。じゃあ、どの日にやるのよと。じゃあいつやるのよと。まず、そこの問題。じゃあ誰が手伝ってくれるのよ。要するに、今の御質問ですと、やはり旅館等が閑散期になる、ですから来てほしいと。それはわかりますけど、もし来たら、じゃあ自分たちは、それにイベントに参加するのと。お客さんが来るほうが大事でしょうというふうになりはしないかというようなことを考えますと、総論のほうは、全く私は賛成でございますけど、各論に入ってくると、かなりハードルは高いのではないかなと。日を決めるにしても、あるいは、またそういった実行委員会で手伝っていただく方を募るにしても、まだ、ほかにもいろいろあるとは思いますが、協賛金の問題であるとか、さまざまな問題が、あるいはうんと寒いですから、今度は、その寒さ対策というのがありますから、そういったことを考えると、現実的には、かなりハードルが高いなど。ただ、もちろん皆さんがそのような中で、やはり冬にやりたいということであれば、町としては全面的に協力していきたいというふうに考えております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 花火大会の開催目的、この実行委員会の資料をちょっと見ているんですけど、開催目的を見ると、やはり諸産業の振興に資することと。あとは、やっぱり観光振興をうたっているんです。実際のところ、地域にお金が落ちているかということ、実はそんなに落ちていない。おそらく、そこの部分、検証すらされてないんじゃないかなと思うんですけども、そのあたりはどうですか。

議 長 商工観光課長。

商 工 観 光 課 長 花火大会が地元には及ぼす影響というような費用対効果の関係なんですけども、これについては温泉旅館組合の方々、丹沢湖環境連絡会の方等に花火が終わった次の日、片づけ等でお会いしますので、そのときに直接、確認はさせていただいております。その中で、温泉旅館組合の方の関係については、夏の時期は黙っていてもお客様が入ると。だから、冬に回していただけないかなという意見は聞いております。



丹沢湖観光連絡会、キャンプ場協議会、元の。そちらは、花火はいつやっても、そんなに変わらないよというような話も承っておりますので、花火をやったことがどれぐらいの金額で効果があったかというような話ではないんですけれども、総論のほうで、確認はさせていただいております。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 実際、そうなんですよね。私も、皆さん御存じでしょうけど、私も観光業やってますんで、あえて言わせてもらいますけど、今回の2組だけです。花火大会のためにお泊まりに来られたのはね。いわゆる、そんなものなのかなど。ふた開けてみたら、花火大会やっていたんだといったところで、実際、行くと交通の便が悪いし、混むし、帰ってこれないし、行けないみたいな、ちょっと御意見もいただくので、だったら自分のところで、バーベキューでもやっていたらいいわといった声がやっぱりあるんです。

おっしゃるように、8月はお盆でもありますし、帰省期間でもあります。夏休みでありますと。わざわざあえてここで花火大会をやって、丹沢湖エリアをいっぱい、キャパオーバーですから、あんなにいっぱいにすることないと思うんです。

であるならば、時期をずらしたらどうか。冬花火と言いましたけども、冬でいえば、例えばクリスマス花火大会とかやって、何でしょう、クリスマスツリーみたいなイルミネーション少し飾りながら、花火が上がった後ろから、こうSNSで写真アップする。それだけで映えすると思うんです。インスタ映えすると思うんです。であれば、すぐ情報なんか発信できると思うので、そんなアイデアは、おそらく考える時間すら、今8月だとなんないんじゃないかな。地元の方は、特にだと思うので、このあたりは、ぜひ前向きに検討会なんかを立ち上げてもらって、意見交換含めて進めていただけたらいいかなと思いますけど、そのあたり、どうでしょうか。

議 長 町長。

町 長 ですから、町としては、実際に地元の人たち、今さまざまな団体が協力していただいておりますから、そちらのほうから、例えばクリスマスがいいといえば、クリスマスにやることは、何らやぶさかではございませんので、それ自体は結構だと思いますけども。実際にやるとなると、かなり本当は、ハ

ードルは高いのではないかなど。イルミネーションやった関係からも、やはり当初、昔イルミネーションやったときは、まだ、ほかでこれほどイルミネーションをやっておりませんでしたけど、その後、さまざまな地域で、もう何十倍のイルミネーションをやっておりますので、当然、みんなそちらに行ってしまうということになりますから、冬の花火で、どの程度呼び込みができるのか、その辺のところもあわせた中で、町としてはとにかく協力していきたいというスタンスでございます。

議 長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 花火の件は、ぜひそういった形で、地元それから関係団体、いろんな、この各論の部分も含めて、具体的な検討をしていただきたいなというふうをお願いをします。

最後になりますけれども、スマートインターチェンジの話もありました。ここの部分については、やはり、この拠点に対して丹沢湖をどうしていくのかという話になってくると思います。

なかなか、この三保地域においては人口減少が進んでいたり、活力衰退、林道崩落、施設の閉館、ここ最近では学校の統合問題も地元のほうでは話題になってきています。为什么呢、このプラスの何かネタというか、マイナスのネタばかりが進行して、さらに負のスパイラルといいますか、なかなか元気がなくなってきている状況です。そんな中で、やはり丹沢湖周辺や、この三保地域全体のこと、これから活力を取り戻すためには、どうしていくべきかといったところが一番必要だと思うんです。最後にそこを、町長、一度、御答弁いただきたいなと思います。

議 長 町長。

町 長 三保地域については、やはり自然が豊かで魅力的、それがユーシンブルーだったり、そういうようなものが、非常に皆さんから取り上げられてきています。ですから、ポテンシャルは非常にあるというふうに思っています。ですから、かなりのやはりポイントがフォーカスするところが東京方面の方に向いていけば、そういった意味ではお客さんは相当来てくれるのではないかなというふうに考えておりますので、そういったようなことも実際にどうすればいいのか、さまざまな我々取り組みはしているんですけれども、なか

なかそういった意味では、ジャストポイントでこれはというのはね。

ですから、ユーシンプルーがいい例だと思います。全く我々は宣伝してなかったのが、最盛期には一日1,000人も何人も来るといようなことですので、そういったようなことが我々としてはどのようなアピールができて、どこにフォーカスできるのかというのは、やはり一番の課題であろうというふうに思っておりますので、おっしゃるように3年間たてばユーシンプルーは行けるということですので、県のほうには間違いなく3年間で完成してくれというのは念を押してきていますので、そういった意味では間違いなく3年間で完成させますというようにお約束をいただいておりますので、その中でやはり玄倉地域も含めて、中川すじ、さまざまなものをどういう形で有効活用できるのか、また東京方面の人にどのようなニーズがあるのか、そういったこともしっかり見きわめながら、少しでも取り組んでいきたいというふうに考えております。